

みやこ
むし
ね

京の虫の音ブックレット



春夏秋冬のはっきりとした日本で、先人は、秋の訪れとともに
鳴き始める虫たちの音色を風流に楽しんできました。

私たちの身近な場所に、鳴く虫はくらしています。夕暮れ時に
外へ出て、虫たちの奏でる音に耳を澄ましてみませんか。

目次

- ◇ 鳴く虫のくらし・・・・・・・・・・・・・・・・・・01
- ◇ いろいろな鳴く虫・・・・・・・・・・・・・・・・・・02
- ◇ 鳴く虫文化・・・・・・・・・・・・・・・・・・07

コオロギ類やキリギリス類といった音を発する昆虫が、古くから「鳴く虫」と呼ばれています。

このブックレットでは、文部省唱歌「虫のこえ」に登場する種や覚えやすい鳴き声の種を紹介しています。

虫の紹介ページに掲載されている二次元コードを読み込むと、音声を聴くことができます。

♪虫のこえ

あれ松虫が 鳴いている
ちんちろ ちんちろ ちんちろりん
あれ鈴虫も 鳴き出した
りんりんりんりん りいんりん
秋の夜長を 鳴き通す
ああおもしろい 虫のこえ
きりきりきりきり こおろぎや
がちゃがちゃ がちゃがちゃ くつわ虫
あとから馬おい おいついて
ちょんちょんちょんちょん すいっちょん
秋の夜長を 鳴き通す
ああおもしろい 虫のこえ

文部省唱歌

1910年（明治43年）に小学校の音楽の教科書で「虫のこえ」が掲載され、現在も歌われ続けています。なお、当時の歌詞では、「こおろぎや」が「きりぎりす」でした。

様々な鳴く虫が、その鳴き声とともに登場し、この歌が作られた明治時代後期に、これらの虫や鳴き声は、多くの人にとってなじみ深いものであったと思われます。

鳴く虫のくらし

鳴く虫（コオロギ類・キリギリス類）は、卵、幼虫（若虫）、成虫という3つの発達段階があり、幼虫と成虫は姿形がよく似ています。幼虫は脱皮を繰り返しながら成長し、徐々に翅が形成されます。



エンマコオロギの卵・幼虫・成虫

鳴く虫は、2枚の前翅（まえばね）をこすり合わせることで振動をつくり、音を生み出します。

また、鳴く虫の多くは、オスだけが発音し、音を使って、求愛や縄張りを宣言するコミュニケーションを行っています。

鳴く虫の種類によって、鳴き声や鳴く時期に違いがあります。春先から鳴く種もありますが、種数は少なく、季節が進むにつれ、多くの種が加わり、8月から9月に鳴いている種類が最も多くなります。



発音中のマツムシ



発音中のカンタン

鳴く虫の種類ごとに好む環境に違いがあり、それぞれ異なった場所に生息しています。マツムシ、スズムシ、キリギリス、クツワムシなど鳴く虫として有名な種の多くは草地に生息しています。

マツムシ（松虫）



♪ピッ、ピリリ

鳴く時期

8月～10月頃に草の上で、主に夜に鳴く。

体長：19～22mm。やや乾燥した丈の高い草地にすむ。

和名の「マツムシ」の由来は、鳴き声が松風の音に似ているからという説や、大阪・奈良では松ぼっくり（マツの実）のことを「チンチロ」と呼ぶことからという説がある。

スズムシ（鈴虫）



♪リーーン
あるいは
リンリン…

鳴く時期

8月～10月頃に地表付近で、主に夜に鳴く。

体長：16～19mm。やや湿り気のある、よく茂った草地にすむ。

和名の「スズムシ」は、鳴き声が鈴を鳴らした時のように聞こえることからつけられた。

エンマコオロギ（闇魔蟋蟀）



♪ コロコロリー

鳴く時期

8月～10月頃に地表付近で、昼夜ともに鳴く。

体長：29～35mm。さまざまな草地にすむ。

和名の「エンマ」は、正面から見た顔が、闇魔様のように見えることからつけられた。

ツツレサセコオロギ（綴刺蟋蟀）



♪ リー・リー・
リー・リー・

鳴く時期

8月～10月頃に地表付近で、昼夜ともに鳴く。

体長：12～20mm。さまざまな草地にすむ。

和名の「ツツレサセ」は、晩秋に生き残ってわびしく鳴くさまが、いかにも寒い冬の到来を伝えているようで、これを古人は「肩刺せ、裾（すそ）刺せ、綴（つづ）れ刺せ」と聞き、着物の手入れをするよう教えているとした俗言に由来する。

キリギリス (螽蜥)



♪ ギーッ・チョン…

鳴く時期

7月～9月頃に草の上で、主に昼に鳴く。

体長：25～42mm。開けた草地にすむ。

和名の「キリギリス」は、鳴き声が「キリキリ」と聞こえることからつけられたという説がある。鳴き声から、別名で「機織（はたおり）」とも呼ばれていた。

クツワムシ (轡虫)



♪ ガシャガシャ
ガシャ…

鳴く時期

8月～9月頃に草の上で、主に夜に鳴く。

体長：50～53mm。林縁や丈の高い草地にすむ。

和名の「クツワムシ」は、鳴き声が、馬が走る時の轡（くつわ）の音のように聞こえることからつけられた。

ハタケノウマオイ（馬追）



♪ スイッチョ・
スイッチョ

鳴く時期

8月～9月頃に草の上で、主に夜に鳴く。

体長：30～45mm。開けた草地にすむ。

和名の「ウマオイ」は、鳴き声が馬子（江戸時代以前に、馬を引いて人や荷物を運ぶことを職業とした人）が馬を追い立てる声に似ていることからつけられた。

カンタン（邯鄲）



♪ ルルルル……

鳴く時期

8月～10月頃に草の上で、主に夜に鳴く。

体長：14～18mm。林縁や草地にすむ。

和名の「カンタン」は、はかなげな鳴き声から、中国の「邯鄲の夢（邯鄲の枕）」という邯鄲の町で一睡のなかに栄枯盛衰を見た若者が、世のはかなさを痛感する故事をもとにつけられた。

カネタタキ（鉦叩）



♪ チン・チン・チン…

鳴く時期

8月～10月頃に木の上で、昼夜ともに鳴く。

体長：7～11mm。縁や生垣などの樹上にすむ。

和名の「カネタタキ」は、鳴き声が鉦（かね）を叩く音に似ていることからつけられた。

アオマツムシ（青松虫）



♪ リュー・リュー…

鳴く時期

8月～10月頃に木の上で、主に夜に鳴く。

体長：22～23mm。公園や街路などの樹上にすむ。

明治時代以降に、中国から持ち込まれた外来種と考えられている。街路樹などでも生息できるので、都市部にも多い。

鳴く虫文化～虫の音を楽しむ～

日本では古来より鳴く虫の奏でる音が人々に親しまれてきました。『万葉集』に虫の音を詠んだ歌が収録されており、鳴く虫と人のかわりは少なくとも奈良時代までさかのぼることができます。

平安時代に編集された『古今和歌集』にも、鳴く虫を詠んだ和歌が収録されています。

君しのぶ草にやつるる ふるさとは

松虫の音ぞ 悲しけりかる

読人知らず

(意味) 草に覆われ見る影もなくなった、かつての二人の思い出の場では、松虫の音がただ悲しく聞こえる

平安時代には、秋に嵯峨野などでマツムシやスズムシなど声のよい虫を選び採り、宮中へ献上した記録が残っています。この行事は「虫撰（むしえらみ）」と呼ばれました。

また、各人好みの虫を籠に入れて鳴き合わせる「虫合（むしあわせ）」や虫の歌を詠んで競う「歌合（うたあわせ）」も行われました。



虫狩図扇面（むしかりずせんめん）

[ColBase (<https://colbase.nich.go.jp>)]

清少納言の『枕草子』や紫式部の『源氏物語』でも、虫の音や鳴く虫が取り上げられています。

『源氏物語』の「野分」の巻には中宮が童女を庭へおろして虫籠に露を入れさせる描写があり、「鈴虫」の巻には女三宮の部屋の前庭を野原の風情にしようと、光源氏が鳴く虫を放つ描写があります。



源氏物語絵色紙帖 野分 詞青蓮院尊純

[ColBase (<https://colbase.nich.go.jp>)]

江戸時代になると、山野に出かけて虫の音を鑑賞する「虫聴き（むしきき）」が庶民の間でも行われるようになり、各地に虫聴きの名所がありました。

京都では、嵯峨野、嵐山、小倉山、神楽岡、竹田の里などが虫聴きの名所となっていました。



錦絵 東都名所「道灌山虫聞之図」

〔国立国会図書館蔵〕

江戸時代の俳諧でも、鳴く虫が数多く詠まれています。季語の「虫」は鳴く虫のことを指します。「松虫」「鈴虫」「蟋蟀（こおろぎ）」「蝻（きりぎりす）」「轡虫（くつわむし）」「馬追（うまおい）」「邯鄲（かんとん）」「鉦叩（かねたたき）」などが秋の季語になっています。

また、江戸時代の17世紀中頃から後半にかけて、京都、大阪に「虫売り（むしうり）」が現れ、鳴く虫を飼うことが盛んに行なわれるようになりました。明治・大正時代、昭和初期まで虫売りは健在で、多種の鳴く虫が売られていました。しかし、現在は、スズムシを飼育する風習が巷に残っているものの、かつては多くの日本人が嗜んだ鳴く虫の飼育は廃れています。

鳴く虫文化の継承

秋の虫たちの奏でる音を風流に楽しむ人は減っており、虫の音を愛でるという文化・風習は衰退しています。

近年、人々が虫の音を聴かなくなったと言われる原因として、下記の3つがあげられています。

- ◇身近な場所で虫が少なくなった。
- ◇人工の音が騒がしくなったため、虫の音がかき消される。
- ◇人が虫の音を意識していない。

鳴く虫がくらす草地は、人の暮らしの変化により、減り続けています。虫の音を愛でる文化を今後も受け継いでいくためには、私たち自身が虫の音を楽しむとともに、鳴く虫がくらす環境を守り、育んでいくことが重要です。

京の虫の音レコーディング

(主催：鳴く虫がつなぐ桂川流域生態系ネットワーク協議会)

京都市内で、市民の方々により録音された虫の音のデータを公開しています。

◇京の虫の音レコーディング ウェブサイト

<https://sites.google.com/view/mushinone-rec>

◇京の虫の音レコーディング YouTubeチャンネル

www.youtube.com/@miyako-mushinone

▼ウェブサイト



▼YouTube



発行：京都府・きょうと生物多様性センター
編集協力：公益財団法人日本生態系協会

(2025年8月発行)